

「地域学校協働活動・教育振興運動」推進 5 か年プラン(令和 2 年度～令和 6 年度)

全県共通課題実践事例集

令和 7 年 3 月

岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課

【目次】

「情報メディアとの上手な付き合い方」の取組

タイトル	実践区名等	ページ
子どもが決めるメディアルール	松尾中学校区	1
規則正しい生活リズムの確立を目指した「ノーゲームデー」の取組み	秉石町	2
子どもたちをSNS・インターネット犯罪から守るために	葛巻町教育委員会事務局	3
矢巾町における情報メディアへの取り組み～保育施設・小中学校・高等学校において～	矢巾町教育振興運動推進委員会	4
親子で考えよう！スマホ・ゲームとのつきあい方	花巻北小中校区教育振興協議会	5
「わかる！できる！子どものゲーム・スマホ利用と保護者の取り組み」	遠野市	6
出前講座を活用した「情報メディアとの上手な付き合い方」の推進	北上市まちづくり部生涯学習文化課	7
「情報メディアとの上手な付き合い方啓発標語」	奥州市江刺教育振興会連合会	8
情報モラル研修「情報学習～情報機器の正しい使い方～」	金ヶ崎町/永岡小学校区/教育振興会・PTA主催	9
家庭でのインターネットのルールづくり～舞川地区の取り組み～	教育振興運動舞川実践区	10
講座：「ゲーム・メディアと子供たちの発達」	末崎中学校区	11
「リ九高ルール」で「リ」ビング「九」時には質の「高」い睡眠を	陸前高田市教育委員会	12
「情報モラル学習」と「メディアコントロールの実践」	大平地区実践協議会 大平中学校実践区	13
情報メディアとの上手な付き合い方	大槌町立吉里吉里学園中学部	14
メディアコントロール運動	豊間根小学校、山田小学校、山田中学校	15
岩小キッズとPTAのネット・ゲーム宣言	岩泉町立岩泉小学校	16
『情報モラル学習会』	三崎地区教育振興連絡協議会	17
研修会「親子で学ぶ情報メディアとの上手な付き合い方 ネットでのいじめ、誹謗中傷にあったら？」	洋野町全学区/洋野町教育振興会	18
『ケータイが変えた子どもたちの生活』	大野学区/大野中学校	19
『身近な人たちがかかわる問題』	大野学区/大野中学校	20
講演会「情報メディアとの上手な付き合い方」	野田村教育振興会	21
普代村教育振興運動実践班リーダー研修会	普代村	22
メディアコントロール週間と運動させた家庭学習の取り組み	浄法寺小・中学校実践区	23
「情報モラル研修会」と「メディア利用の仕方についての親子授業」	小軽米小学校実践区	24
情報モラル講演会	九戸村教育振興運動推進協議会九戸中学校実践区	25
「親子情報モラル教室」と「メディアを使わない時間の過ごし方の工夫」	鳥海小実践区	26

コミュニティ・スクールとの連携による「目指す子どもの姿」の共有に基づく運動の展開

タイトル	実践区名等	ページ
学校・家庭・地域で連携し、思いやりの心を育む読書活動の推進	山岸小学校区教育振興協議会	27
50年後100年後の地域の環境・自然を守る「マイタウン・マイトレジャー」	滝二中学校区教育振興運動推進協議会	28
小中学生に向けた「秋まつり参加団体紹介」	沼宮内中学校区	29
日詰小学校 6年「花の虹タイム」日詰商店街学習	紫波町立日詰小学校地域学校協働活動	30
【コミュニティ・スクール懇談会（「熟議」）】	遠野西中学校区	31
教振活動からの読書ボランティア参加	西和賀町教育振興運動推進協議会	32
コミュニティ・スクールの円滑な導入と目的意識の共有	平泉町コミュニティ・スクール推進協議会	33
「住田町教育振興運動実践協議会」と「世田米地区・有住地区連携推進委員会」の開催	住田町	34
「チーム大槌」学校・家庭・地域で創るコミュニティ・スクール	大槌町	35
子どもたちも参加する学校運営協議会	宮古市第一中学校区運営協議会	36
学校運営協議会やPTAの声を反映させた交通安全教室の実施	岩泉町立小川中学校	37
コミュニティ・スクールとの組織一体化	岩泉町	38
田野畠めぐり	田野畠村村内全域	39
地域に支えられた「藤島っ子マラソン」	小鳥谷小学校実践区	40

実践事例の見方（※レイアウトが変更になっている場合もあります）

【実践区名】	【3 取組内容】
【1 タイトル】	
【2 背景・目的】	
【4 実施体制】	
【5 成果】	【6 課題や今後の展開】

「地域学校協働活動・教育振興運動」推進5か年プラン(R2~R6)

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

【八幡平市松野・寄木・柏台実践区】

松尾中学校区

子どもが決めるメディアルール

【背景】

小学生からのメディア接触→早期対応

3小学校からの入学→共通ルール

与えられたルール→自分のルール

【体制】

松尾中・松野小・寄木小・柏台小

(児童生徒 保護者)

【成果】

1. 気をつけるようになった「自分たちで決めたから」
2. 生活が充実してきた「学力もあがってきた」



【取組内容】

1. 自分達でルールを決める

→3小学校の児童会代表と生徒会代表が話し合う

「松尾中学校区スマホネット利用安全共同宣言」

2. みんなで決めて みんなで守る

→中学校から共通の文書配布

年3回（月曜から金曜）

「小中連携ノーテレビノーゲームデー」

3. みんなで知る

→児童 生徒 保護者

「スマホ・ケイタイ学習会」

決めるだけじゃない
結果を持ち寄って改善

今年で3回目

《改善》

中学生の利用制限

午後11時以降→10時以降に

減らすだけじゃない
スマホ・ゲームを減らし
読書と学習へ

犯罪だけじゃない
健康 特に心の健康も

【これから】

1. 「宣言」の見直しを継続すること
2. 児童生徒の主体的な関わりのための工夫

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

零石町

規則正しい生活リズムの確立を目指した 「ノーゲームデー」の取組み

零石町内の児童生徒のテレビ・ゲームの時間が増加しているとともに、生活リズムの確立の弊害となっている。こうした現状を踏まえ、ノーゲームデーを設定し、各家庭で一日の時間の使い方にについて話し合い、実践することにより、規則正しい生活リズムを作っていくきっかけとするもの。

参加者：町内 小学生（646名）

中学生（353名） 高校生（68名）

合計（1067名）とその保護者

【取組内容】

- 年に2回（6月・11月）の紙面による調査
- 定期テストの前など、学校や家庭が比較的取り組みやすい日程を選んで設定。
- 町内すべての小・中・高等学校の児童生徒を対象としたもの。（保護者は児童生徒に対するアドバイザーとして参加）
- 「ゲームをしない日」だけではなく、児童生徒が自分のやるべきことを考える。読書、学習、手伝い、運動、一家団欒等、家族で話し合うものとして設定。
- アンケート結果の公表（取組結果をグラフで示し、「見える化」をすることで次の取組の意欲の向上を図る）

【成果】小・中学生は全学年で9割が一日ゲームをしないという目標を達成できた。高校生は学年により7割～9割と開きがあったもののほぼ達成できた。単にゲームをしないということだけではなく、自分ができることを自分で探す児童や、保護者がお手伝いをさせたりするなどして時間を有意義に使うためにはどうすればよいかを家族みんなで考え、協力して取り組むことができた。

零石町教育委員会

令和4年度第1回「ノーゲームデー」取り組み結果について（お知らせ）

第1回「ノーゲームデー」の集計結果がまとまりましたので、お知らせいたします。
小学生全員の達成率は、昨年度より1.8%ダウンしました。中学生全員の達成率は昨年度と同じ結果になりました。高校生は3%のアップになりました。
日常の取り組み成果を発揮して達成率100%の学年がありました。有意義な過ごし方や規則正しい生活リズムのつくり方を考えるきっかけになるような取り組みを目指しております。

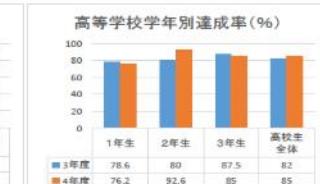
1 実施日 令和4年6月28日（火）
令和4年6月30日（火）
2 実施の有無 町内すべての実践区で実施
小中学校6実践区
高等学校1実践区



② 中学校学年別達成率



③ 高等学校学年別達成率



★ 小学生の守れなかった児童のゲーム時間は平均40分未満でした。
中学生の守れなかった生徒のゲーム時間は平均2時間11分でした。
高校生の守れなかった生徒のゲーム時間は平均55分でした。

★ 守れた児童生徒の時間の過ごし方は、読書、学習、遊び、運動、手伝い、家族団らん、睡眠、習い事、掃除お絵かき、テレビを見る等があげられています。自分のできることを自分で探す児童や保護者が意図的にお手伝いさせている家庭もあります。

【課題や今後の展開】現代的課題がゲームに限らずSNS等メディア全体に関わる問題に移行している状況を踏まえ、「ノーゲームデー」の取組のみに縛られない、新しい展開を検討していく。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

葛巻町／教育委員会事務局

子どもたちをSNS・インターネット犯罪から守るために

スマートホン、PCの所持率の増加に加え、町内公共施設等のフリーWi-Fiを利用する子どもたちが増加。思いがけないトラブルが発生している背景を受け、強制的に規制するのではなく、保護者や大人も安全性や危険性について学び、子どもたちの自主性を尊重しながら個人や各家庭に適したルール作りをするもの。

対象：小中学生(234人)と保護者

子どもたちを取り巻く環境の整備



※写真は放課後の居場所として子どもたちが集まる複合庁舎「まなべ～す」の表示

【成果】研修会を契機に公共施設でのルール作りや親子で考えるきっかけをつくったことで、共通理解と情報の共有が図られた。取り組み以前より、家庭や公共施設でのスマホ利用に改善がみられる状況となった。

・青少年育成ネットワーク運営委員会議

(情報モラルを題材に講演会)

・公民館図書室にWi-Fiの使い方について表示

・保護者を対象にチェックシートを配布

(親子でスマホ等の使い方について考えるきっかけづくり)

【課題や今後の展開】子どもたちが自分で考え自制できる力を育んでいくように継続的な取組体制を整備していく必要があるほか、今後益々複雑化するインターネット事情について、多角的な視点で学べる機会の創出が重要と考える。

全県共通課題「情報メディアとの上手な付き合い方」実践事例

矢巾町教育振興運動推進委員会

【取り組み】



【タイトル】

矢巾町における情報メディアへの取り組み
～保育施設・小中学校・高等学校において～

【実施体制】

各学校による
実施

■ 調査と分析

- ・メディア時間と学習時間について調査
- ・情報通信機器に関するアンケート調査
- ・アンケート調査を実施後、保護者懇談会で調査結果をもとに家庭での悩みの話し合い

■ 周知啓発

- ・園だよりやリーフレット、啓発ポスター配布による周知

■ 課題解決のための学び

- ・令和3年度合同研修会 演題「親だから知りたいメディアルール」
- ・小中学生保護者向け啓発動画の提供
- ・情報モラル学習会、親子情報モラル講演会の開催
- ・外部講師を招き「携帯、スマホ安全教室」の開催

■ 課題の解決策

- ・テレビ、ゲーム、動画視聴の家庭内でのルール表作り
- ・家族ふれあい月間を設け「ノーメディア、ノーゲーム」へつなげる
- ・情報メディア状況調査の結果をもとに、三者面談を活用して啓発動画を視聴
- ・メディアダイエットの呼びかけ（スマートフォン、テレビ、ゲーム、インターネットと関わる時間を減らす）、ぐんぐんノートに記録

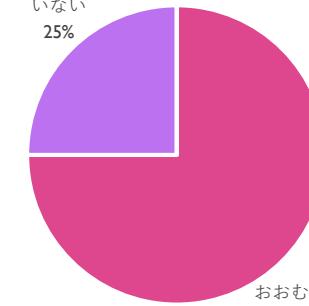
【成果】令和6年度矢巾町教育振興運動状況調査より(R6.11実施)

全県課題への取り組み

あまり推進されて

いない

25%



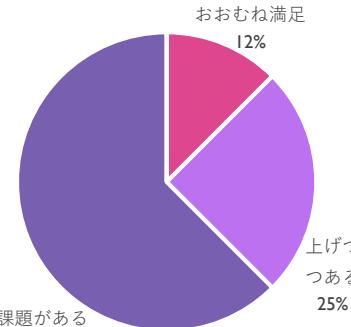
取り組みの成果

おおむね満足

12%

上げつ
つある

25%



【現状】

おおむね良好に取り組まれたが、課題が残った。

【課題・今後の展開】

情報メディアに対する取り組み期間中は効果があるものの、日常でのメディアの使用時間が長く、個人差も大きいことが課題である。また、研修会や講演会の実施が情報メディアとの上手な付き合い方に結びついているかは疑問がある。

教育振興運動推進プラン2024～2028の全県課題に加え、「情報メディアとの上手な付き合い方」についても、各園や各校にて状況に応じた取り組みの実践により引き続き推進を図っていく。

「地域学校協働活動・教育振興運動」推進5か年プラン(R2~R6)

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

花巻市 花巻北小中校区

花巻北小中校区教育振興協議会

親子で考えよう！スマホ・ゲームとのつきあい方

児童生徒のスマートフォン等の使用率の上昇やゲーム時間の長さなどから起こる「ネット依存」・「ゲーム依存」が社会問題となっていることから、家庭内での使用ルールの定着や『「情報モラル」標語コンクール』の開催による課題の意識づけを行った。

花巻北小中校区（桜台小・花巻北中）の児童生徒及び保護者等

花巻北小中校区教育振興協議会

【取組内容】

親子で考えよう！「スマホ・ゲーム」とのつきあい方

花巻北小中校区学校運営協議会（桜台小・花巻北中による小中連携による取組）

花北スタンダード — 親子で考えよう！「スマホ・ゲーム」とのつきあい方 —

規則正しい生活（早寝・早起き）、家庭学習の時間を確保するため、学習以外で活用する「スマホ」・「ゲーム」等の使用についての約束を親子で話し合って決めましょう！【この用紙は、居間・リビング等、家族みんなが見ることができる場所に置いておきましょう！】

< わが家の約束 >

① () 時以降は、右の枠の中に置き、使わないようにします。（自分の部屋に持ち込みません）

② 1日の使用時間を決めましょう。

平日：() 分以内にします。

休日：() 分以内にします。

③ ①②の約束が守られなかった場合の約束

児童生徒氏名	保護者氏名
--------	-------

「スマホ・携帯ゲーム」は、ここに置いておきます。

令和3年度から、ノーメディアウィークの取組として各家庭に配布

「情報モラル」コンクールの開催

花巻北小中校区 教育振興協議会

令和6年度 桜台小学校・花巻北中学校 「情報モラル」標語コンクール

生活に密着している「デジタル機器（スマホ・タブレット・ゲーム機）」ですが、一方で「ゲーム障害」や「ネット依存」の児童生徒の増加、SNSへの誹謗中傷・いじめの書き込みが社会問題となっています。

花巻北小中校区では、「親子のルール」や「ノーメディア取り組み」にあたる等、地域をあげて取り組んでおり、今般（12月）は児童（小4～6）・生徒及び保護者の皆さんから標語を募集します。

●入賞者は協議会主催の教育実践活動推進大会で表彰
令和6年度 最優秀賞

★スマホはね ルールやぶると 依存症（小学生の部）

★SNS 一步間違え SOS (中学生の部)

★手をとめて 心で復唱 文字を打つ (保護者の部)

【成果】

家庭内におけるスマートフォンやゲームの使用ルールを親子で話し合い決める事、また、決めたルールを家族みんなが見ることができる場所に貼ることで、ノーメディア・ウィーク（中学校的テスト期間中）に限らず定期的な振り返りを促すことができ、より効果的な意識づけになった。

【課題や今後の展開】

今後も取組を継続し、家庭でのルール作り・情報モラルの定着を図りたい。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

【遠野市】

【家庭教育講演会】

テーマ：「わかる！できる！子どものゲーム・スマホ利用と保護者の取り組み」

【背景·目的】

- ・近年子どもたちを取り巻く情報メディアの問題について、遠野市PTA連合会とともに主催した「地域で子どもを育てる活動発表会」において、標記講演会を実施した。

- ・子どものゲーム・スマホ利用の現状とそれに対する保護者の取り組みについて、保護者や学校関係者及び地域の方々とともに理解を深める場とし、家庭へ持ち帰って実践をしていただくことを目的とした。

【実施体制】

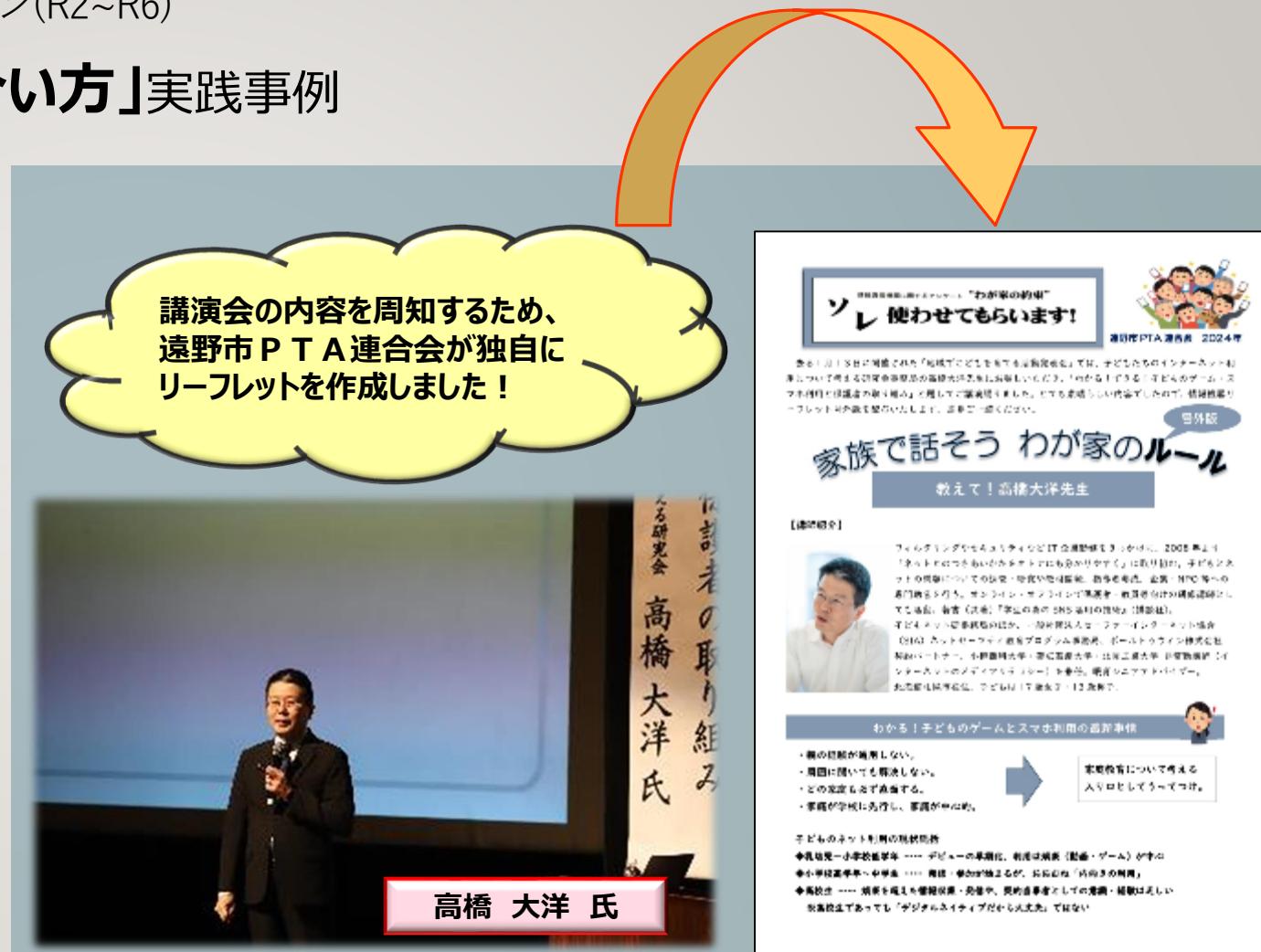
主催：遠野市教育委員会、遠野市PTA連合会、遠野市保護司会

参加者：各学校 P T A 会員、学校関係者、地域関係団体職員、学校運営協議会委員 等

【成果】

- 多くのPTAや地域関係者が集まる場で、情報メディアとの付き合い方についての最新の事例や手法について学ぶことが出来た。

・内容についても、メディアと上手に付き合っていくために、メディア以外の体験活動を充実させていくことの重要性を共有し、学校・地域・家庭がそれぞれ担う役割について確認することができた。



【課題や今後の展開】

- ・今後も P T A と連携した家庭教育講演会等を通じ、情報メディアとの上手な付き合い方について最新の情報を提供し、学校・地域・家庭での意識の向上を図る。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

北上市まちづくり部生涯学習文化課

出前講座を活用した「情報メディアとの上手な付き合い方」の推進

市内で子どものゲーム依存、不登校が問題となっている中、「情報モラル」、「情報メディアとの上手な付き合い方」に関する講座を行うことで、親子でゲームやスマートフォンとの付き合い方を考えたり、ルール化につなげる機会を創出することを目的とし実施

【開催校 4校（小学校3校、中学校1校）】

【参加者（総数）】

・小学校（3校） 児童：149名、 保護者158名

・中学校（1校） 生徒545名

【取組内容】

- (1) 実施方法
市内各小中学校で実施している「情報メディアとの上手な付き合い方」の取組みを補完するものとして、依頼があった小中学校に対して講座を開催
- (2) 実施時期
令和6年11月～令和7年3月
- (3) 対象
① 市内幼保・認定こども園の関係者
② 市内全小・中学校の児童生徒、保護者
- (4) 講座内容
① 情報モラル学習サポート
② 上手なゲーム（ネット）との付き合い方
- (5) アンケート調査
① 講座実施後の意識調査（1回目）
② 2か月後の意識調査（2回目）



【成果】

親子で講座を受講したことで、共通理解が図られ、情報との付き合い方やゲーム、インターネットのルール化への意識が高まった。

【課題や今後の展開】

「メディアとの上手な付き合い方」への取組みは、なるべく低年齢から取り組んでいくことが必要であることから、引き続き、市内全域に必要性を周知し、継続して出前講座を活用した取組みを実施していく。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

奥州市HP
「情報メディアとの上手な付き合い方啓発標語」



奥州市江刺教育振興会連合会

「情報メディアとの上手な付き合い方啓発標語」

標語作成をきっかけに家族や友人間での情報メディアについて話す機会を作ること、啓発標語を広く周知して地域全体で情報メディアに対する意識を高めることを目的とするもの。

応募総数は136件。
(小学生26件、中学生5件、高校生76件、家族の部28件、一般の部1件)

【成果】

授業の中で標語作成の取組をおこなったり、情報モラル教室の学習の一環として標語を家族で作成する取組が見られ、友人やクラスメイト、家族と情報メディアについて考える機会が持てた。

「情報メディアとの上手な付き合い方啓発標語」

募集期間：令和6年7月12日～8月30日、標語審査：令和6年11月、啓発活動：令和6年12月13日～



部門ごとに優秀作品を審査で決定し、ステッカー（左）とポスター（右）を作成し、学校や地区センターへ配布・掲示した。

また、奥州市HPに部門ごとの優秀作品を掲載し、周知活動を広く行った。

【課題や今後の展開】

中学生の部や一般の部の応募が少なく、部門ごとに応募の差が見られたが、ステッカー等の周知活動で情報メディアについて考えたり話したりする機会となったことから、引き続き事業を進めていきたい。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

【実践区名】

金ヶ崎町/永岡小学校区/教育振興会・
PTA主催

情報モラル研修

「情報学習～情報機器の正しい使い方～」

現代の家庭教育に必要な現代的な課題について学び、子どもたちの健やかな成長を促し、豊かな人間性を育むため、情報モラルについて研修するもの。

PTA・教育振興会員・学校運営協議会員・
民生児童委員・教員・地域の方々

情報モラル研修 「情報学習～情報機器の正しい使い方～」

令和 6 年 9 月 27 日 (金) 18 時～19 時 30 分 永岡小学校体育館

研修内容

- ・ネット利用の危険性
- ・危険回避の方法
- ・SNS のトラブルを避けよう
- ・遊んでもよいゲームは？
- ・長時間利用による影響



【成果】 実際にスマートフォンを操作しながらネット利用の危険性やトラブル回避方法を体験できた。子どもにスマートフォンを使わせることへの漠然とした不安が、研修によって気を付けるべきことが理解でき、家族で話し合うきっかけにもなった。

【課題や今後の展開】 大人だけではなく、児童にも体験させたい内容でもあったので、次回は児童も対象にした研修を計画したい。

「地域学校協働活動・教育振興運動」推進5か年プラン(R2~R6)

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

一関地域教育振興運動推進研修会 教育振興運動舞川実践区

家庭でのインターネットのルールづくり ～舞川地区の取り組み～

学校運営支援協議会で取組内容を地域の構成団体と共有し、センターがコーディネーター役となって、学校や家庭、地域住民が連携して取り組みを推進している。

一関市立舞川幼稚園 (PTA)
一関市立舞川小学校 (PTA)
一関市立舞川中学校 (PTA)
一関市舞川市民センター
一関市まちづくり推進部
一関市教育委員会

【成果】 舞川地区では、地域総ぐみで教育環境の向上に取り組んでいる。取組の重点項目である「情報メディアとの付き合い方」を踏まえ、幼稚園や小学校、中学校、市民センターが連携し、一関市教育委員会が啓発している「居間8ルール」「居間9ルール」や「いちのせきの家庭教育10か条」に取り組んでいる。家庭や地域住民、子ども達が「情報メディアとの上手な付き合い方」について一緒に考え、地域全体で目標を共有するとともに、子どもたちが望ましい生活習慣を確立することができるよう、長年取組を継続している。



【今後の展開】メディア利用において、親と子どもの間には認識のずれがあることを理解し、親子で家庭の約束や利用の仕方を確認しながら機器の利用をコントロールし、情報メディアと共生できる子どもたちを、育成していきたい。調査から見えた結果を活かしながら、学校や家庭、地域でのメディアリテラシーについての理解を深め、実践を継続していきたい。

「地域学校協働活動・教育振興運動」推進5か年プラン(R2~R6)

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

大船渡市 末崎中学校区

家庭教育学級

演題：「ゲーム・メディアと子供たちの発達」

講師：臨床心理士・千葉 崇弘 氏

【背景・目的】

近年、子ども達の「ネット依存」は社会的な課題となつておらず、ネットやゲームが、子ども達の「こころ」と「からだ」にもたらす影響が心配されていることから、学校の方から子ども達への心情理解につなげることを目的とし、本学級の実施希望が対象校から寄せられたため、主にゲーム依存症の仕組み、子どもの身体に与える影響、予防法等に関する学習機会について提供したものである。

本学級を通じ、保護者が地域や学校、行政等とつながりながら学び合い、家庭教育の重要性や役割について理解を深めることを目的としている。

【開催日時】

令和6年10月1日（火）18:30~20:00

【参加人数】

保護者13名、児童・生徒1名、教職員12名、
地域関係者2名 計28名

【実施による成果】

保護者のみならず、支援する立場となる教職員、地域関係者ともゲーム依存に関する仕組みについて共有することができた。さらに保護者からは、本研修会に参加した感想として、「ゲーム依存症になる仕組みに関する説明が分かりやすかった」、「（予防法について）家庭で実際に試してみたいと思う」といった今後の家庭での実践に繋がる意見が寄せられた。

【講座の内容】

ゲーム依存症の仕組みとは？

- 自身によるコントロール不可の状態
- ゲームが最優先事項
- 罪悪感は持ちつつもやめられない

子どもの身体に与える影響

- ゲーム依存が続くと、生活・体調両面の不調、さらに精神面にも影響を及ぼす。
- 1つだけに頼りすぎる依存は「悪い依存」になりがち
- 「まじめながんばりやさん」こそ依存症に陥りやすい。

ゲーム依存を予防するためには

- 単純にゲームを禁止、制限してもダメ。「ゲーム以外の時間」を作ること、また親子で一緒に話ができる関係を作ることが大事

もし子どもがゲーム依存症になってしまったら…

家庭内だけで抱え込まず、学校、地域、専門の相談窓口といった様々な支援（地域資源）の輪の中で解決策を導き出すことが必要

【今後の展開】

当初、小中学校区における保護者・地域住民等を対象としたが、スマートフォン・タブレット等の使用、ゲーム依存といった問題は低年齢化の傾向にあるため、対象地域内のごどんの保護者も急遽参加対象に追加した。今後は、低年齢の子どもを持つ保護者向けの家庭教育に重点を置き、学習機会の場を提供していきたい。



当日の様子

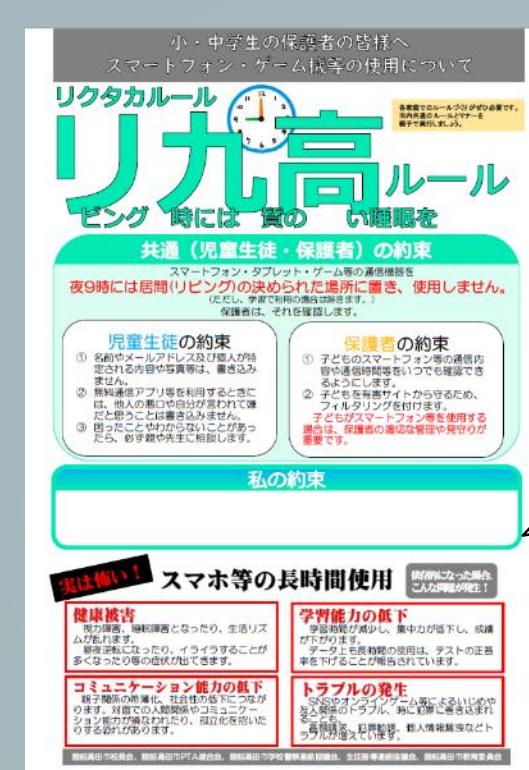
全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

陸前高田市教育委員会

「リ九高ルール」で「リ」ビング「九」時には質の「高」い睡眠を

児童・生徒のメディア利用時間が増えていることに伴い、「夜九時にはリビングの決められた場所にメディアを置き、使用しません」を市内共通取組として、学校警察連絡協議会で作成し、毎年配付、実施、改訂を加えているもの。

市内全小・中学生対象



市内全小中学生にアンケートを行い、利用時間の実態を経年で記載しています。2時間以内の利用を呼びかけています。

市内共通の児童生徒の約束、保護者の約束を示し、その下に「私の約束」を記入するようにしています。

アンケートの結果から、家庭でのルールづくりの必要性を呼びかけています。



【成果】 市内共通取組として示したことでの、夜九時までにメディア利用を控える意識が年々高まっているのがアンケート結果から分かる。また、7～8割の児童生徒は、家庭で決めた約束を守って利用している。各学校が保護者面談等でも隨時確認していることで、家庭でのルール作りも進んでいることが伺える。

【課題や今後の展開】 1日に2時間以上利用する児童生徒が、学年が上がるにつれて増えている。また、ルールが決まっていない家庭も1割程度ある。今後は、利用時間も含めた確実なルール作りを、家庭に働きかけていけるようにしたい。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

釜石市教育振興運動協議会

大平地区実践協議会 大平中学校実践区

「情報モラル学習」と 「メディアコントロールの実践」

学力向上を目的として、望ましい学習習慣づくりの推進、家庭学習の充実を図るため実施するもの。

大平地区実践協議会内（大平中、平田小、白山小）の児童生徒及び保護者、教職員

【成果】

メディアコントロールについては、中学校の定期テストに合わせて取組期間を統一し、各家庭に協力を求めて実施したことから、それぞれの実態を振り返り、各回ごとに目標を設定して取り組んだことが効果的だった。また、情報モラル学習についても、メディアの適切な利用の仕方や情報モラルについての啓発を進めることができた。

○情報モラル講演会（大平中）

日時：令和 5 年 1 月 28 日（火）6 校時

演題：「情報モラル～ネット社会に必要なルールとは～」

講師：岩手県警察スクールサポーター 古澤義之さん

○メディアコントロールの実践（地区実践協議会合同）

実施期間：大平中定期テスト期間（年 4 回）

目標コース：

A コース … 1 日中「ノーメディア」で過ごす

B コース … メディア使用は 1 日 30 分以内にする

C コース … メディア使用は 1 日 1 時間以内にする



【課題・今後の展開】

メディア利用の時間が増えていることからくる、体調不良や生活リズムの乱れが見られることから、学校と家庭とで実態や課題を共有し、日常生活を改善することができるよう、さらに工夫していく必要がある。また、外部機関を生かした情報モラル学習の推進や、保護者と一緒に子どもたちのメディア利用の実態や課題を把握した上で、情報モラルを学ぶ機会を設定していきたい。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

大槌町/吉里吉里学園中学部

情報メディアとの上手な付き合い方

SNSトラブルなどについて、情報としては認識しているものの、他人事として捉えている生徒がほとんどであることから、危険性を認識したうえで正しく使えるように具体的な事例等を交え学習するもの。

参加者：7～9年生、その保護者、
教職員等（約50名）

【取組内容】

講座の内容

・パワーポイントと資料で、
解り易く説明していただき
た。

- ①スマホのダメな使い方を理
解する
- ②どのような使い方をすれば
いいかを考える
- ③ICTとは何か？
- ④近年のネット問題について
- ⑤ネットトラブルの事例



講師：岩手県生涯学習推進センター
社会教育主事 高橋 啓 氏

【成果】

- ・小学部(4年)から、情報メディアの学習を行っている。
- ・継続的に行うことで子ども達だけではなく、保護者、教職員も問題を共有し、教育にもつなげることができた。親子で話すキッカケや保護者自身、携帯機器の使い方を再確認する場になった。また参観日に開催することにより、多くの保護者に参加していただい
た。..

【今後の展開】

- ・学校、保護者から好評なので来年度以降も継続して開催していきたい。
- ・対象を中学部と小学部に分けることによって、その年代の抱える悩みを共
有し、解決策に向けて検討する。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

【山田町】

豊間根小学校、山田小学校、山田中学校

【タイトル】

メディアコントロール運動

【目的】

スマートフォン、ゲーム機等メディア関連機器の日常の利用について見直し、家族ぐるみの取組を通して改善の機会とする。

【参加者】

全児童生徒及び保護者、教職員

【成果】

取組結果では、「機器との関わり方」「時間の活用」、それぞれの肯定回答が9割を超えることが多く、継続的な取組の成果と考えられる。

【取組内容】

●実施日

中学校のテストに合わせた2日間を年3回（計6日間）実施した。

●カードの活用

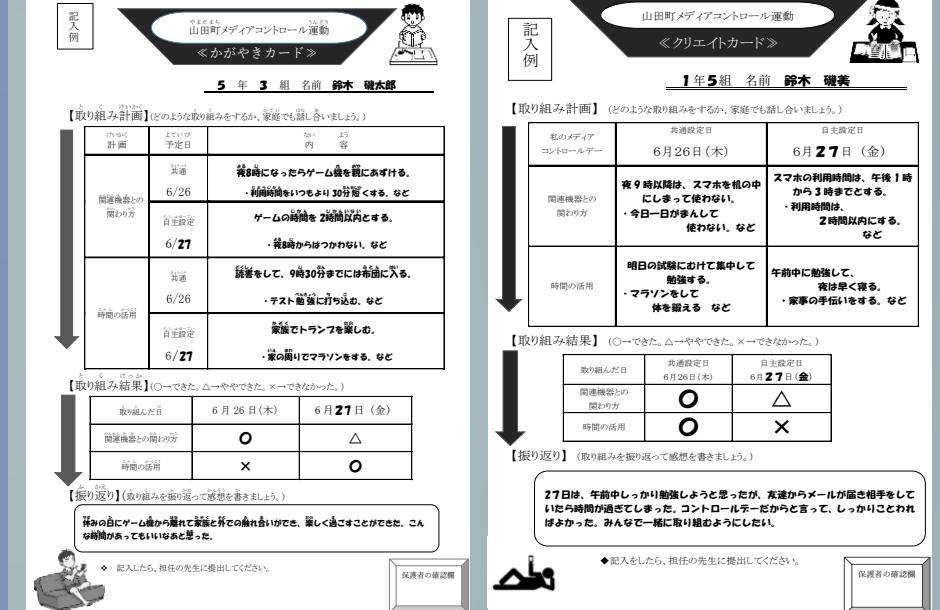
「メディアコントロール運動カード」を活用し、「関連機器との関わり方」、「時間の活用」について児童生徒と保護者が家庭での計画立て、その内容をカードに記入して取組を実施した。取組後にその結果と振り返りをカードに記入して提出してもらった。

●取組のフィードバック

取組結果を集約分析し、実態・成果・課題について家庭及び学校と共有しながら、次回の実施につなげた。

●その他

1回目の取組の同時期に、小学校3年生から中学校3年生までを対象に情報機器の所有状況等実態把握のための調査を実施している。



【課題】

カードの提出率が9割に達していないことから、児童生徒及び保護者に活動の趣旨について周知を図り、提出率の向上を図りたい。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

岩泉小学校

岩小キッズとPTAのネット・ゲーム宣言

ルールを決めていない、約束を守れないなど情報メディアの付き合い方に課題があり、子どもが主体となり、保護者も参加した形で共通のルールを設定し、メディアとの上手な付き合い方について認識を深めたもの。

参加者：学校、児童、保護者

【成果】

児童が主体的にルールづくりに参加し、保護者からもルールを募ることで、学校、児童、家庭が認識を深め、一体感のある取り組みとすることことができた。

- 委員会活動（情報委員会）を中心に「子どもの宣言」、PTA役員会で「親の宣言」を決める。
- 「家庭学習定着週間（年5回程度）」や「長期休業明けの元気アップチャレンジ」で、生活習慣やノーテレビ・ゲームの点検項目を設け、家庭の協力を得ながら取り組みを行っている。

いわしょう ヒーティエー せんげん

令和6年度 岩小キッズとPTAのネット・ゲーム宣言

おやせんげん おやこ 親の宣言

① 食事の時間は、親子ともネット・ゲームを使用しません。※家族の楽しい会話をする時間にします。

② 夜など、一人の部屋に機器を持ち込ませません。※置くところを決めて、返却させます。

③ 子どもの使用状況（使用時間・使用内容）をはよく把握します。※子どもの興味に寄り添いながら、声掛けをしていきます。

④ 「岩小キッズとPTAのネット・ゲーム宣言」+「我が家ルール」を常に意識し、子どもをネット被害から守ります。

⑤ 上記は目安です。おうちの人と決めたまきの時間や時刻を守りましょう。

こ せんげん 子どもの宣言

じぶんほかひとい ①自分や他の人が言われていやなことを言ったり、書いたりしません。

じぶんほかひとたいせつじょうほ ②自分や他の人の大切な情報をおせません。

ひときまじかんまも ③おうちの人と決めたまきや時間を守ります。

しゅくだいつか ④やるべきこと（宿題など）をやってから使います。

こまおとなそうだん ⑤使っていて困ったときは大人に相談します。

いわしきうじかんじこくじやく 岩小キッズのメディア時間・時刻の目安

時間 平日2時間、休日3時間まで

やめる時刻 午後8時30分

※上記は目安です。おうちの人と決めたまきの時間や時刻を守りましょう。

【課題や今後の展開】

家庭での指導について難しさを感じている保護者もいる。今後も学校・家庭が連携して取り組みを継続させていく。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

久慈市

三崎地区教育振興連絡協議会

『情報モラル学習会』

スマートフォン、PCなどを所持・利用することが当たり前になってきた現代において、子どもたちを危険から守るために保護者として知っておかなければならぬ知識や情報（メリット・デメリットなど）について学ぶためを開催したもの。

参加者：教員、保護者、地区住民 36人

【事業風景】



講師：久慈警察署 生活安全課 課長

【成果】

三崎中学区内(2小学校・1中学校)の教員と、各学校の保護者が一堂に会する機会に開催し、聴講していただいたことで地区全体として情報モラルに関する知識や危機感について共有することができた。加えて、地域全体で子どもたちを見守るという意識の醸成にもつながったと感じる。

【今後の展開】

SNS・インターネットを悪用した事件やトラブルは、常に新しい事案が続々と生まれている状況なので、対応策などについても常にアップデートできるよう、今後も継続してこの学習会を開催していきたい。

「地域学校協働活動・教育振興運動」推進5か年プラン(R2~R6)

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

【洋野町教育振興会】

洋野町/全学区/洋野町教育振興会

【1 タイトル】

令和6年度洋野町教育振興会実践区リーダー研修会

「親子で学ぶ情報メディアとの上手な付き合い方 ネットでのいじめ、誹謗中傷にあつたら？」

【2 背景・目的】

全県共通課題である「情報メディアとの上手な付き合い方」の周知と取り組み奨励のため、各実践区リーダーを対象に、様々な事例から知識を深める。

【4 実施体制】

参加者：各実践区保護者25人

児童・生徒21人 計46人

【5 成果】

情報メディアとの付き合い方の研修では、何気ないやり取りでも文字だけでは誤解が生じることがあり、被害者だけでなく加害者になりうることもある。そのため、ネットでのコミュニケーションには、注意が必要であることを学ぶことができた。

【3 取組内容】



令和6年度洋野町教育振興会実践区リーダー研修会開催要項

1 権 旨
全県共通課題である「情報メディアとの上手な付き合い方」の周知と取り組み奨励のため、各実践区リーダーを対象に、様々な事例から知識を深める。

2 主 催
洋野町教育振興会／洋野町教育委員会／県北教育事務所

3 日 時
令和6年7月7日（日）10時00分～11時30分

4 場 所
洋野町民文化会館 コミュニティホール

5 研修内容・日程

No	区分	内容等
1	説明	■教育振興運動等について 説明①：「令和6年度の教育振興運動・地域学校協働活動について」 県北教育事務所 社会教育主事 横溝 詩織 氏 説明②：「不登校の子どもの社会的自立を目指す支援の手引き」 町教育委員会 教育相談員 斎 陳人 氏
2	研修	■親子で学ぶ情報メディアとの上手な付き合い方 「ネットでのいじめ、誹謗中傷にあつたら？」 講師：県立生涯学習推進センター 社会教育主事 斎藤 剛 氏

9:30	10:00	05	25	11:30
受付	会	説明 20分 (①10分、②10分)		研修 (65分)

6 参加対象
各実践区実践班班長とその子（児童生徒）、地域住民、学校関係者など

7 参加割当期待数（親子等の合計期待数。子どもは概ね4年生以上が望ましい。）

実践区	種市	角島	宿戸	中野	大野	林郷	帶島	合計
期待数	8人	4人	5人	6人	8人	4人	5人	40人

8 参加にあたっての留意事項
(1) 参加者は当日9時55分までに洋野町民文化会館で受付を済ませてください。
(2) 参加者は筆記用具を持参願います。

9 参加申し込み
各実践区で参加者をとりまとめ、別紙様式により7月3日（水）までに教育委員会生涯学習課あて内部情報システムメッセージにより報告願います。

10 問い合わせ
洋野町教育振興会事務局 担当：本村（洋野町教育委員会生涯学習課）
TEL:0194-65-5411（洋野町民文化会館）FAX:0194-69-1100

【6 課題や今後の展開】

全体的に内容が保護者よくなっているので、リーダー研修会という会の特性から各実践区のリーダーとなる子どもが主体の部分も必要と感じた。また、今回のような教育相談員の説明についての時間配分も検討が必要と感じた。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

【大野中学校】

洋野町/大野学区/大野中学校

『ケータイが変えた子どもたちの生活』

- ・インターネットや情報端末機器の歴史（どのような変遷をしてきたか）とそれに伴う生活の変化や影響について。
- ・スマホは水や食料、電気などと同等のインフラ、つまり通信インフラであることを再認識する必要性。
- ・スマホ等を子どもたちが使う際は、禁止ありきの物理的な制限ではなく、身の安全と利用目的について親子で考えて使わせることの大切さについて。

PTA・保護者 21人

【成果】

子どもにスマホを与えるか、与えないか、与えても禁止ルールを設けるなど、使い方（使う時間など）に対する問題意識をもっていた保護者・先生が多かったが、今回の講演で、その必要性や使う目的について親子で話し合い、確認することが大切であることがわかった。

【取組内容】



期日：令和6年7月17日（水）
会場：洋野町立大野中学校図書室
講師：合同会社ロジカルキット代表
下田 太一 氏
対象：PTA・保護者

【課題や今後の展開】

親子で一緒に聴いてもよいなどの意見も出されていたため、開催形式について今後検討したい。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

【大野中学校】

洋野町/大野学区/大野中学校

『身近な人たちがかかわる問題』

スマホ（情報端末機器）が生徒の生活にどのような影響を及ぼすのか、それにたいして自分たちができることは何かなどについて考えさせられた。特に、利用することの良し悪しや利用時間の制限などではなく、スマホを利用する目的をはっきりもつこと、道具として活用するからには使い方をしっかりと把握することなど、積極的に活用する術についてわかりやすく教えていただいた。

参加者：全校生徒120人

【取組内容】



期日：令和 6 年 7 月 16 日（火）
会場：洋野町立大野中学校体育館
講師：合同会社ロジカルキット代表
下田 太一 氏
対象：全校生徒

【成果】

生徒は、スマホについて、単に便利な道具という印象だけだったものがより便利で有益な道具であるという認識を深めると同時に、とても危険な物であり、それは使う人の目的によって変わってくるものであることを深く理解した。使いすぎはよくないが、それよりも、使う目的がとても大事なことで、使うときは、目的意識をしっかりともち、節度を守ることの重要性を理解できた。

【課題や今後の展開】

ここで学んだことを各家庭で共通理解を図ることが今後の課題である。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

野田村教育振興会

講演会

「情報メディアとの上手な付き合い方」

学校での一人一台端末やスマートフォンの普及により子どもたちを取り巻くメディア環境は大きく変化している。便利な反面、様々な危険が潜んでいる情報メディアとの付き合い方について、村民全体が学ぶ機会を提供するもの。

参加者：児童生徒、保護者、地域住民等
(74名)

講演会の内容

- ①ゲームやスマホでこんな生活をしていませんか？
- ②軽い気持ちでアップすると危険です
- ③これっていじめ？！
- ④SNSいじめとはどんなもの？！
- ⑤ネット上での人権侵害に気をつけよう
- ⑥ネットリテラシーってなに？
- ⑦情報を読み解く力をつけよう



【成果】アンケートを実施した結果「スマホの使い方を改めて考えることができた」「SNSの正しい使い方がわかった」「子どもにスマホを持たせるための知識として勉強になった」「危険性を再認識することができた。家でも気を付けていきたい」などの感想があり、それぞれの立場で情報メディアとの付き合い方を考える機会となった。

【課題】講演会や研修会に加えて各家庭での情報メディアに関するルール作り及びその取組などの機会を設ける必要がある。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

【実践区名】

普代村

【1 タイトル】

普代村教育振興運動実践班リーダー研修会

【2 背景・目的】

5か年プランでの取り組みを振り返り、子ども・家庭・地域への定着を確認する。

【4 実施体制】

参加者：小中学校の児童生徒、保護者（33名）

【3 取組内容】

（1）5か年プランの振り返りワークショップ

- ・各実践班のこれまでの取り組みをまとめたシートを用意し、感想等を書き込む。
- ・シートを全体で共有し「いいね！」シールを貼り付ける。

（2）県北教育事務所 社会教育主事による演習

- ・クイズ形式でメディアについて学んできたことを復習した。
- ・データやエピソードを用いて、いかに生活に影響があるかをご講義いただいた。



【5 成果】クイズやダジャレを取り入れた演習で、緊張して難しくなることなく、和やかな雰囲気の中で、特別なことではなく生活に密着している課題であることを体感することができた。子どもと保護者が話し合って、メディアと向き合っていることを確認することができた。

【6 課題や今後の展開】この5年の間にメディアの利用者や利用場面は急激に増加している。特別な課題ではなく、生活習慣や約束事の中の一つとして啓発を継続することが必要である。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

二戸市

浄法寺小・中学校実践区

【テーマ】

メディアコントロール週間と連動させた家庭学習の取り組み

【目的】

小中で連携し、学力向上、そして家族とのふれあいの時間を確保するため、メディアコントロール週間を設定し、テレビやゲーム、スマホ、タブレット等の情報機器から離れて、学習や読書に取り組むもの。

【参加者】

浄法寺小学校全児童、浄法寺中学校全生徒、その保護者

【成果】

メディアコントロール週間では、個人目標を定め、メディアとの付き合い方を意識したことで、家庭学習・読書の充実を図ることができた。また、家族団らんの時間も増えたといった声もあがつた。取り組みが浸透してきた。

メディア研修会では、家庭でのルール作りが大切なことを親子で共有することができた。

【取組内容】

1. メディアコントロール週間

浄法寺の家庭学習のきまりをもとに、「メディアコントロール週間」を設定し、情報機器から離れて、家庭学習や読書、家族とのふれあいの時間とする。

「勉強が終わってからテレビを見る」、「ゲームやYouTubeは1時間まで」、「家族と話す時間を増やす」など、それぞれの家庭でメディアルールを決め、チェックカードに記入する。

2. メディア研修会

「小・中学生のための命の授業（ネット・ゲーム依存予防）」（令和5年度）

講師 未来の風せいわ病院 理事長 智田 文徳 氏

オンラインで講師、小学校、中学校をつなぎ、小中合同の講演会を開催。ネット・ゲーム依存が健康に与える影響について学び、メディアとの付き合い方についてグループで話し合い、考えたことを交流。その後、保護者向けの講話や話し合いも実施。

【課題や今後の展開】

メディアコントロール週間やメディア研修会で身に付けた経験や知識を活かし、今後も家庭内で取り組みを進めていく。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

軽米町 軽米町立小軽米小学校

小軽米小学校実践区

「情報モラル研修会」と「メディア利用の仕方についての親子授業」

課題となっているメディアコントロールについて、児童、保護者、学校が一緒に現状を確認し、情報メディアの利用の仕方について学びながら、ルール作りやメディア利用以外に取り組めることなどについて考える。

参加者：児童4～6年生35名、その保護者43名、教職員14名（計92名）

【成果】児童、保護者、教職員が一緒に情報メディアの利用に対する理解を深め、さらに現状の確認と、家庭でのルール作りや家族での楽しい時間の使い方について考える時間をもつことができた。

「情報モラル研修会」 令和4年11月1日（火）小軽米小学校

研修会の内容

SNSによるいじめやゲーム依存の怖さなどについて、動画などの教材を使用して説明。ルール作りの大切さについて確認した。

親子でメディア利用の課題を考える

児童と保護者が一緒に、メディア利用の仕方について相談しながら考える時間を設けた。タブレットで日常のメディア利用のアンケートを行い、依存症のチェックを行ったほか、ネットやゲームに依存しないために、休みの日や放課後に楽しめることや、ほっとできることを親子で話し合った。



【課題や今後の展開】情報メディアの利用方法や危険性についての理解を深めることや、児童、保護者、学校が情報共有し、連携しながらメディアコントロールの取組を継続していくことが必要である。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

【実践区名】

九戸村教育振興運動推進協議会

九戸中学校実践区

【1 タイトル】

情報モラル講演会

【2 背景・目的】

メディアの利用方法に関しては、令和6年度からの岩手県教育振興運動推進プランの共通課題である「家庭学習の充実」と「体験活動の充実」のベースとなる課題であることから企画したもの。

【4 実施体制】

参加者：生徒110人、学校職員16人、
保護者等17人

【5 成果】

対象者に合わせた形で時間を分けて行い、ネットゲーム依存が人間関係に及ぼす弊害について自分事として学ぶことができた。

【3 取組内容】

実施日 令和5年7月3日

場 所 九戸中学校体育館

講 師 せいわ病院理事長 智田文徳 氏

内 容 健康とメディアに関するオンライン講演会。前半は生徒対象の講演と教師も参加してのグループワーク、後半は保護者向けの講演とグループワークを実施。

【6 課題や今後の展開】

他の実践区も含めて継続して取り組んでいきたい。

全県共通課題「メディアとの上手な付き合い方」実践事例

一戸町 一戸地区 鳥海小実践区

「親子情報モラル教室」と 「メディアを使わない時間の過ごし方の工夫」

- ・メディアを使用している児童は多く、安全な使い方を学ぶ必要がある。
- ・メディアを長時間使用している傾向があり、時間の使い方について見直し、生活改善を行う必要がある。

参加者：全校児童、保護者
教職員（計35名）

【成果】

情報モラル教室を開催したことにより、メディア利用についてのルール等について、各家庭で確認していただくことができた。メディアコントロールウィークを通して、メディアを使わない時間の過ごし方について、各家庭で考え実践していただく機会を設定することができた。

親子情報モラル 教室の開催

＜講師＞ 岩手県警察本部生活安全
サイバー犯罪対策課

- 親子で一緒に
・健康に及ぼす影響
・ゲーム依存の怖さ
・ネット上でのルールやマナーを学び、
メディアの使い方について考える。



【保護者の感想】
・身近にある携帯・ゲーム等から犯罪や危険なことにつながる可能性があるということを警察の方から聞くことができ、より危機感を持つことができたと思います。とても良い機会になりました。
・メディアコントロールをする意味を分かりやすく、子どもたちと共に学ぶことができたので、よかったです。それぞれが「ギック」とする部分があったと思います。

メディアコントロールウィークの取組



メディア以外の良さに気づく

メディア時間が減少

この取組は、年に3回実施し、1回の取組期間は1週間。アはチェック表、イはメディアを使わない時間に取り組んで欲しい内容をbingoにしたものである。取組後は、児童、保護者に感想を書いてもらい、取組状況を職員間で共有している。

ア

11月「メディアコントロール」チャレンジウィーク

鳥海小学校 学校保健委員会

ねん
ねん
ばん
なまえ

【やがた】	【ねんねんばん】	【ねんねんばん】
1. 家族で話し合って、若の1日～1週の時間割()に書きましょう。	1年生() 分を24時間() 分に分けて書きましょう。	2年生() 分を24時間() 分に分けて書きましょう。
2. 毎日、①にメディアを見た時間と、②～⑤にはまもれたら〇、まじめないやうに△に書きましょう。	1～2年 生年 3年 4年半 5～6年 1週間	1～2年 生年 3年 4年半 5～6年 1週間
① メディアのじかん ② ねむじかん ③ よののじかん ④ べのうじかん ⑤ ねむじかん	1年生() 分を24時間() 分に分けて書きましょう。	1年生() 分を24時間() 分に分けて書きましょう。
★おまかせのサイン ★先生のサイン	1年生() 分を24時間() 分に分けて書きましょう。	1年生() 分を24時間() 分に分けて書きましょう。

【メディアとは】
TV、ゲーム機、パソコン、スマホ、タブレットなど主に画面のある機器のことです。長時間使い続けることで、身体の健康、学力への影響が心配されます。
【おまかせ】
おまかせの時間に何をするか自分で決めてください

【ひがえ】
(20日にかうじょ)

【おまかせ】

「地域学校協働活動・教育振興運動」推進5か年プラン(R2~R6)

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

盛岡市 山岸小学校区教育振興協議会 (図書ボランティア「トトロの会」)

学校・家庭・地域で連携し、 思いやりの心を育む読書活動の推進

山岸小学校では、目指す子ども像「心が豊かで思いやりのある子ども」の育成に向け、盛岡市内小学校の中でも早期に結成し、長年継続した活動を続けている図書ボランティア「トトロの会」と連携し、読書活動の推進に取り組んでいる。

図書ボランティア「トトロの会」
(山岸小学校保護者及びOB 16名)



【成果】

夏休みなど長期休業の際には、子どもたちが自らジャンルや目標冊数を決め、読んだ本をおすすめ度と共に書き記す「ブックウォークカード」、1冊の本を親子で読み合い感想を共有する「親子読書カード」などの家庭と連携した取組を実施することができた。また、図書ボランティア「トトロの会」によるお話会や、環境整備の充実にかかる創意工夫された活動により、読書好きな子どもたちを育成するとともに、子どもたちの思いやりの心を育んだり、豊かな心を醸成したりすることにつながっている。

【今後の展開】

今後も学校・家庭・地域で連携し、「思いやりの心を育む読書活動の推進」に向けて、地域と成果を共有しながら、継続とさらなる充実に向けた取組を推進していく。

「地域学校協働活動・教育振興運動」推進5か年プラン(R2~R6)

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

滝沢市 滝沢第二中学校区

滝二中学校区教育振興運動推進協議会

地域に生きる子どもの力で未来を守る ～50年後100年後の地域の環境・自然を 守る「マイタウン・マイトレジャー」～

コミュニティ・スクール（学校教育振興協議会）と協働し、地区生徒会活動として実施しているこの取組は、社会とのつながりの中で学び、地域で一体となって子どもを育む実践区の社会貢献活動として、平成28年度から継続実施されている。

「マイタウン・マイトレジャー」参加対象：

全校生徒、保護者、教職員、地域住民等

「外来種駆除活動」参加対象：上記有志(48名)

実施の流れ

10月

- ・学校教育振興協議会にて次年度全自治会地区一斉清掃日の調整

5月

- ・教育振興運動推進協議会にて共通理解
- ・「滝沢魅力学」講話

6月

- ・マイタウン・マイトレジャー（地区一斉清掃）
- 「外来種駆除活動」実施



5月10日「滝沢魅力学」講話



6月2日6:00～
マイタウン・マイトレジャー



6月2日7:00～
外来種駆除活動



【成果】 例年、地域の方々から「中学生が一緒に作業してくれることで、高齢の方々も活力にあふれ、元気をもらえる。」と多くの声が届いている。「滝沢魅力学」で地域の自然の現状について学び、生徒の「自分たちに何ができるか」という思いから始まった「外来種駆除活動」では、中学生の活動の様子を聞き、地域の方々も積極的に駆除活動に取り組み始めている。継続した取組として令和5年度「いわてユネスコ活動奨励賞」受賞。

【課題】 各自治会との日程調整を円滑化するために、前年度中に協議が必要である。

【今後の展開】 実践区内の小学校や保育園からも参加希望の声が聞かれており、今後は幼保・小・中の連携も図り、さらに地域一体となった取組へと活動を広げていきたい。

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

岩手町 沼宮内中学校区

小中学生へ向けた

「秋まつり参加団体紹介」

「地域の教育力を高めること」「地域の活性化」を目指し、参加者が減少しつつある町の秋まつりへの子どもたちの参加を促す目的で実施。

沼宮内地区の全小中学生、教職員

地域住民(各団体代表)学校運営協議会委員

約400名

実施概要

◇団体ごとに作成した資料(必要な物品、練習日、問い合わせ先など)を児童生徒へ配布

◇小・中学校の各教室のモニターへ、各団体ごとの活動紹介発表・紹介映像を一斉オンライン配信

◇紹介を受けて興味のある団体が見つかった子どもは各団体へ直接参加申込を行い、練習・本番に参加

実施の様子

オンライン配信で各団体の活動をPR
令和6年
8月26日(月)開催



【活動の成果】

例年よりも子どもの参加率が向上し、それに伴って保護者の参加も増加した。若い世代が秋まつりの活動に加わったことにより、**地域の活性化・コミュニティ強化**につながった。学校運営協議会としても、今後の教育振興運動・地域学校協働活動に積極的に取り組んでいくためのきっかけづくりとなった。

【今後の展開】

初の試みということもあり今回は学校主体となって計画を行ったため、来年度以降は徐々に学校運営協議会と連携して活動できるようにしていきたい。開催時期や内容については今後も検討を続けていきたい。

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

紫波町立日詰小学校 地域学校協働活動

日詰小学校 6年「花の虹タイム」 日詰商店街学習

令和4年度全国学力状況調査「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」「自分にはよいところがある」の肯定的な回答が低いという課題を学校運営協議会で熟議し、「児童自身が自分の未来を主体的に考え、自信をもって未来への展望を持つことができる児童の育成」をめざし、課題解決に向け学校と地域が一緒に地域学習「花の虹タイム」を全学年において見直し、教育課程そのものを再構築する必要があった。

- ・学校運営協議会（10人）
- ・地域学校協働チーム（5人）
- ・6年学児童（60人）教職員（4名）
- ・大学生（11人）
- ・訪問先（11店舗）

【成果】

- ・学校と地域（大学生含む）が協働して進める「花の虹タイム」実践の積み重ねにより、児童の地域への貢献意識）と自己肯定感が実施前や県比を超えるなど、地域への愛着意識と自己肯定感の向上が顕著である。
- ・花の虹タイムが多様に実践されることで、地域のつながりが新たに構築され、地域で子供を育てる意識が高まるなど、学校を核とした地域づくりが進んでいる。

◆学校運営協議会

児童や地域の課題解決に向け、熟議（CSコーディネーターがファシリテーター）では主に「花の虹タイム」について協議している。

熟議では、委員の地域学校協働活動への主体的な関わりを分担したり、地域情報を提供したりすることで「花の虹タイム」が充実してきている。また、新たに岩手県立大学生も参加するなど多様な立場からの意見が反映された協議会運営となっている。

◆地域学校協働活動

令和5年からはじまった6学年「日詰商店街学習」では、大学生が事前に商店をリサーチ、児童へのプレゼン、グループ分け（質問事項の精査を含む）、当日の児童引率等の中核となるなど、地域と学校の架け橋となった。

◆社会に開かれた教育課程

それぞれの単元実施前には、学校長・CSコーディネーター・学年担任が委員とともに、地域講師や大学生と内容を協議し、学習内容を検討することが通常化されたことで、社会に開かれた教育課程が充実・系統化し内容が充実することにより、児童が「何ができるようになるか」を考え、学ぶ意欲の向上につながっている。



大学生による児童への事前プレゼン



商店街学習当日、プロ用機材で撮影体験

【今後の展開】

- ・教育振興運動の理念を基本とし、学校運営協議会委員の参画により「花の虹タイム」の内容をさらに充実させていきたい。
- ・児童が進学する紫波第一中学校と共に、9年間を見えた「地域学習」を進めた。

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

【遠野市】遠野西中学校区

(対象地域：小友地区・鰐沢地区・宮守地区・達曾部地区)

【コミュニティ・スクール懇談会（「熟議」）】

懇談会テーマ：「情報メディアとの上手な付き合い方」

【背景・目的】

令和5年度のコミュニティ・スクール懇談会と、令和6年度の学校運営協議会の中で出された意見を踏まえ、今後遠野西中学校区で取組む方向性について明らかにするため、多くの当事者が集い話し合う「熟議」を行うことで、今後の遠野西中学校区におけるコミュニティ・スクールの推進に寄与することを目的としたもの。

【実施体制】

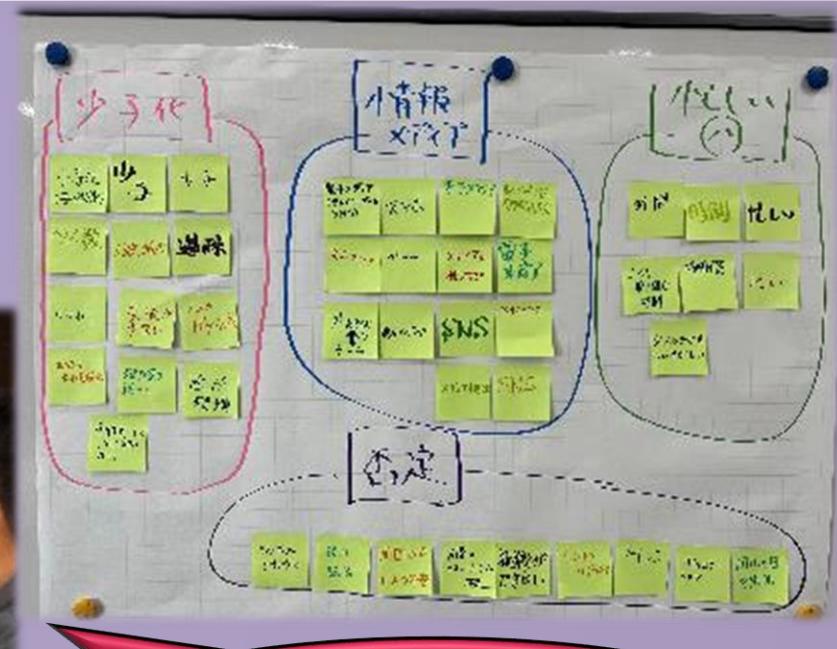
参加者：学校運営協議会委員、地域関係団体職員、遠野西中学校生徒会役員及び遠野西中学校区の教職員（計43名）

【成果】

- 令和5年度から引き続きの開催となり、参加者が「熟議」の手法を理解し、スムーズな進行で行うことが出来た。
- 遠野西中学校区全体の現状について、世代を越えて意見を交わしたことで、情報メディア以外にも子どもたちをとりまく様々な状況や子どもたちの育ちを難しくする（妨げる）要因があることを共有できた。
- 子どもたちが日常的に感じている思いを大人と共有することで、大人が気づいていない子どもならではの観点があることが分かった。

【「熟議」のテーマ】

私たちが地域とのつながりのもとでたくましい子に育てよう（なろう）とするときに、それを難しくする（妨げる）要因には何が考えられるか。



5者（学校・家庭・地域・子ども・行政）が連携して遠野西中学校区の現状について語り合いました！

【課題や今後の展開】

- 地域関係団体職員の参加人数が少なかったため、今後の地域での活動の展開を踏まえ、積極的に参加を呼び掛けていく。
- この話し合いの内容を、各小中学校の学校経営や地域づくりの計画に向けて生かすことが大事であり、今後の学校運営協議会や地域づくりの会議で、「『熟議』で出された視点をどう活かすか」という方向性の協議がなされることを期待したい。

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

西和賀町教育振興運動推進協議会

教振活動からの読書ボランティア参加

子どもが小中学校を卒業した後、地域住民が学校に直接的にかかわる機会が減っていた。

教振関係者、読書ボランティア団体

【取組内容】

教振関係者は地域での行事を通して、小中学校の児童・生徒とかかわりを持ってきたが、町教振推進協議会役員が、かかわりを広げようと読書ボランティアの一員となり活動を行った。

活動に意義を見出した関係者は、参加者を増やす取り組みとして、令和 6 年度の町教振主催の研修会で活動報告を兼ね読み聞かせの実演を行った。



【成果】

教振活動が学校に直接的にかかわるボランティア活動に繋がった。
学校に関わり児童生徒と触れ合うことの良さや活動の価値を地域住民に伝えることができた。

【課題や今後の展開】 今回は町教振推進協議会役員の方だったが、直接学校に関わる地域住民をさらに増やしていくことが課題。

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

【平泉町】

平泉町コミュニティ・スクール推進協議会

【1 タイトル】

コミュニティ・スクールの円滑な導入と目的意識の共有

【2 背景・目的】

本町では、教育振興運動を地域コミュニティとの密接な関わりによって活発に展開してきたが、学校と地域が連携する体制が複数あり、学校の運営方針や抱えている課題、連携・協働の意識を地域全体で共有することが不十分である状況が見られたため、各校へのコミュニティ・スクール導入に合わせて、これまでの体制と機能を「平泉町コミュニティ・スクール推進協議会」に一本化し、地域全体での目的意識の共有による持続的かつ効果的な教育活動を実践できる体制を構築することとした。

【4 実施体制】

学校運営協議会、学校及び幼稚園、保育所、PTA、行政区長、民生児童委員、地域婦人団体協議会、老人クラブ連合会長、子育て支援ボランティア、放課後児童クラブ、人権擁護委員、地域教育コーディネーター等（27名）

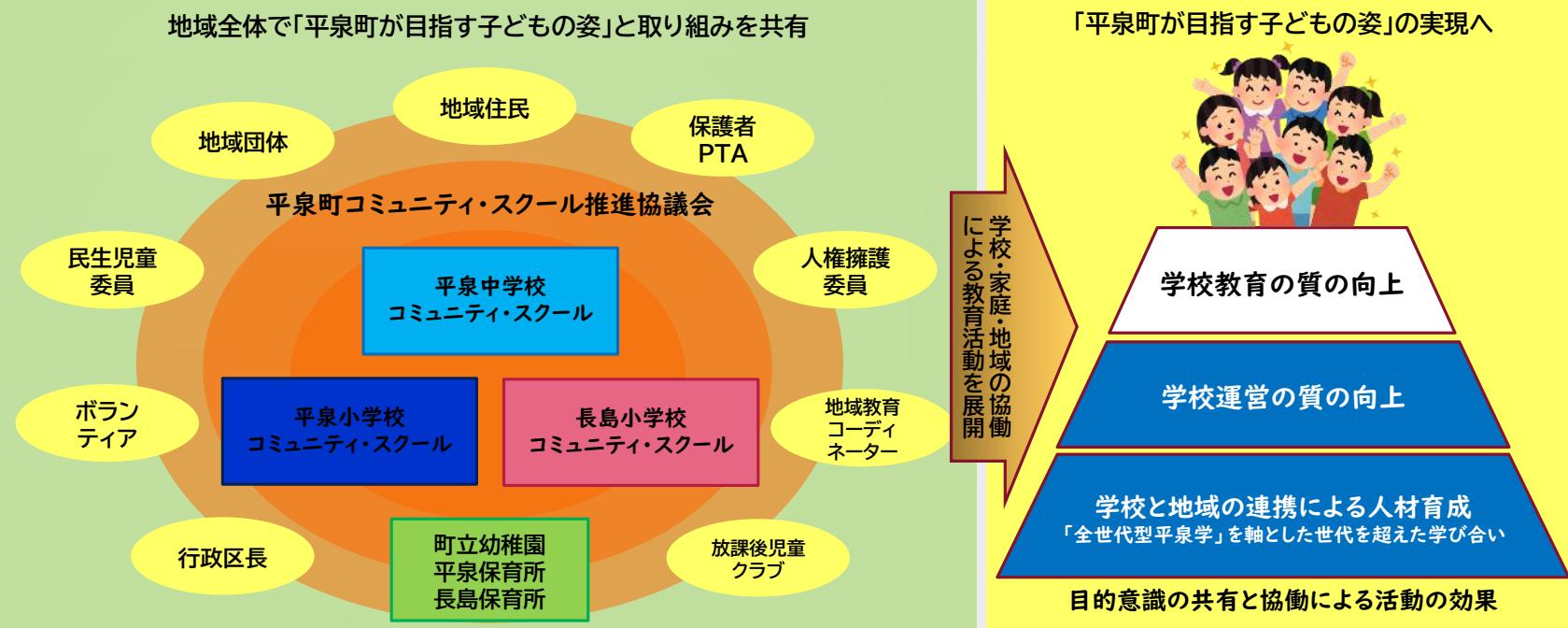
【5 成果】

平泉町コミュニティ・スクール推進協議会が地域のネットワークとして機能し、幼保小中の縦のつながりと地域住民や関係団体による横のつながりが構築されつつある。それによって、「点」であった各々の活動も「面」としてつながり、「平泉町が目指す子どもの姿」の共有とともに、それが主体性と役割分担をもって効果的な活動について検討できることから、地域教育力も向上しつつある。

【3 取組内容】

コミュニティ・スクールを核として、活動の「つながり」と「広がり」を生み出す地域のネットワーク「平泉町コミュニティ・スクール推進協議会」を運営

それぞれが役割を認識し、主体性を持って活動に参画する地域へ（地域教育力の向上）



【6 課題や今後の展開】

多くの人が主体的に参画することができるよう、関心を高める情報発信や学習機会の提供等に取り組み、継続的に「地域ぐるみで子どもたちを育む」意識の醸成を図ることで、地域における教育活動の裾野を着実に広げていく。

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

住田町

「住田町教育振興運動実践協議会」と「世田米地区・有住地区連携推進委員会」の開催

全県共通課題等について情報を共有するとともに、世田米・有住地区に分かれて、各地区の課題や解決策を話し合う場を設けている。

参加者：地区公民館長・主事、各校副校長・PTA会長、保育園長

○町内5つの実践区毎に活動を協議する「住田町教育振興運動実践協議会」と、世田米・有住地区毎に連携して課題解決方法を協議する「世田米地区・有住地区連携推進委員会」を年2回開催。

※全県共通課題等の情報共有もしている。

○各学校のコミュニティスクール（学校運営協議会）の構成員が、上記委員会の構成員を兼ねており、地域の「目指す子どもの姿」と、学校の「目指す子どもの姿」を共有しながら、運動を開拓することができている。

【成果】

町、地域、学校の「目指す子どもの姿」を共有して活動を開拓できている。

【課題や今後の展開】

コロナ禍以降、地区ごとの連携が以前ほど行われていない。

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

大槌町

「チーム大槌」学校・家庭・地域で創る コミュニティ・スクール

- ①町の特別教育課程「ふるさと科」の実施
- ②コミュニティ・スクール委員会の実施
- ③放課後子ども教室の運営
- ④長期休業中の子どもの居場所づくり 等

町全体で大槌の子どもたちを育していくという理念のもと、大槌町コミュニティ・スクール協議会を中心に活動している。



- ①ふるさと科「かねなり団子づくり」
- ②ふるさと科「海の学習」
- ③長期休業中の子どもの居場所づくり「まき割り体験」
- ④放課後子ども教室を利用した、地元企業による実験

【成果】

- ① 地域や自分の生き方を見つめ、町の復興発展を担うグローカルな人材の育成
- ② 地域の方々が学校活動に参画することによる「開かれた学校」の実現

【課題や今後の展開】

今後もコミュニティ・スクールを継続し、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを育てていけるよう、地域住民の参加者を拡大していきたい。

「地域学校協働活動・教育振興運動」推進5か年プラン(R2~R6)

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

宮古市第一中学校区 運営協議会

子どもたちも参加する 学校運営協議会

宮古市第一中学校区運営協議会は、第一中学校、宮古小学校、山口小学校の3校で構成され、年3回会場持ち回りで開催している。

学校・家庭・地域の中心にいる子どもたちの声を直接聞くことで、それぞれの立場で学校と地域のつながりや、今求められることに気づき、考えることができる。

これからの学校づくり、地域づくりにつなげるため、令和6年度に新たな試みとして、参加者に各開催校の児童生徒約10名を交え、協議の中で「学校」をテーマとした熟議を行っている。

・宮古市第一中学校区運営協議会委員…20名
・各校 児童・生徒…約10名

【取組内容】

①第1回学校運営協議会

開催日：令和6年7月10日

会 場：第一中学校

参加生徒：生徒会執行部9名

＜テーマ＞

「今後求められている学校とは？どんな学校にしたいか？」
グループに分かれ、以下の内容を熟議し、テキストマイニング、共起ネットワーク図で分析した

- ・現在の課題
- ・どのような学校にしたいか

②第2回学校運営協議会

開催日：令和6年11月27日

会 場：宮古小学校

参加生徒：6年生10名

＜テーマ＞

「より良い学校づくりに向けて」
グループに分かれ、ワールドカフェ方式で以下の内容を熟議した

- ・「理想の学校はどんなところ？」
- ・「理想の学校があったら、どんな良いところがある？」
- ・「そのためにできることはなんだろうか？」



【成果】学校運営協議会における話し合いの中で、学校に求める理想の形や期待すること、そのために自分たちができることなど、たくさんの意見が交わされた。それらのアイデアの中に、子どもたちの「やってみたい」と、大人の「それなら実現できるよ」の繋がるやり取りが聞こえ、「学校づくり」が「地域づくり」になっていくことを実感できる時間となった。また、今回の話し合いにより、今後児童生徒が主体となって行われる様々な活動につながることが見込まれる。

【今後の展開】子どもたち、地域の方からた意見をもとに、今後の活動につなげていく。

岩泉町立小川中学校

学校運営協議会やPTAの声を反映させた交通安全教室の実施

学校運営協議会で、自転車の危険性について指摘があり、交通安全教室を実施し、生徒の交通安全意識を高め、子どもを守る活動を行った。

参加者：学校、警察署、
地元交通指導員

【内容】

①交通安全講話

警察署の方から講話いただき自転車の危険性等を学んだ。

②実地訓練

警察署や地元交通指導員の協力のもと、実際に校内や町内を運転し、正しい自転車の乗り方について学んだ。



【成果】

学校、PTA、地域が連携・協働した活動を通して生徒の交通安全への意識を高め、健全育成につなげることができた。

【課題や今後の展開】

交通マナーアップ指定校として、模範となるよう引き続き取り組んでいく。

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

岩泉町

コミュニティ・スクールとの組織一体化

コミュニティ・スクールとの一体的推進のため、これまで別々の組織でそれぞれ活動してきたものを、組織統合した。

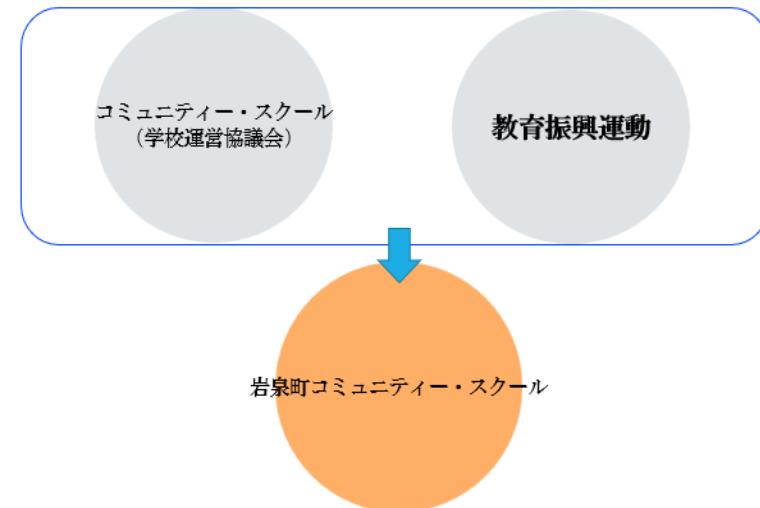
参加者：20名（学校、各学校運営協議会会長、教育委員会等）

【3 取組内容】

- これまでコミュニティ・スクールと教育振興運動の2つの組織で活動していたものを統合し、一体となり運動を展開していくこうとするもの。
- 年に1回開催し、全体の方向性を確認する。

【今後の方針について】

CSと教育振興運動を**一体化**した形で運営していく



【成果】

教育振興運動とコミュニティ・スクールの役割や住み分けが分からぬという声があったが、コミュニティスクールを頭、教育振興運動を手足とし、一連（一体）とすることで考え方整理された。

【課題や今後の展開】

地域連携コーディネーターを配置し活動を推進していく

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

田野畠村村内全域

田野畠めぐり

小学校統合後10年以上が経過し、子供達が6つの地域・6つの学校の事が分かりづらくなってきたため、地域を知る、地域とつながることを目的として行ったもの。

参加者：全学年の児童、地域住民、教職員等（240名）

【内容】

漁村ならではの風景を眺めながら、地元ガイドから人々の暮らしや漁法、震災、復興など地域のさまざまな歴史を学んだ。

また、地域めぐり及びはつらつ世代間交流に加え、地域でお弁当を食べ、奉仕活動をして学校に戻る1日コースを実施。なお、昼食の際は、村の食生活改善推進員からの協力のうえ、郷土料理を提供した。

田野畠めぐり（島越地区）

令和6年9月30日（月）



【成果】地域と学校の「ひと・もの・こと」について、多くを学び、世代を超えて触れ合うことが出来た。地域の方々からも好評であり、より地域とつながることが出来た。

【課題や今後の展開】課題は平日開催であるため、学校と地域の調整が多少困難。今後は可能であれば、体験活動も取り入れていきたい。

全県共通課題「コミュニティ・スクールとの連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」実践事例

一戸町 小鳥谷地区

小鳥谷小学校実践区

地域に支えられた「藤島っ子マラソン」

まなびフェスト「健やかな体の育成」をねらいとした学校行事で、子ども達の頑張る姿を地域の方々に見てもらうべく令和5年よりCSと連携して地域のメイン通り（旧国道4号）での公道開催とした。体力向上に加え、児童の走る姿で地域に元気を与える大会になればという願いもあった。

【協力者】本校CS自慢のラインナップ！（児童・教職員は省略。）町防犯協会小鳥谷支部・小鳥谷駐在所長・役場総務課・町交通指導隊・スクールガードによる連携した安全確保。交通整理。本格派ペースメーカーの伴走。令和5年度より10名増の充実した約20名のスタッフで大会を支えていただいた。

～地域の支え～

- ①沿道での声援（声・横断幕・旗・山車・ハロウィン扮装…）
- ②監察係
- ③場所提供（本部・駐車場・ポスター掲示）
- ④伴走者
- ⑤物品協力（無線機・誘導棒）
- ⑥道路使用許可申請に関わる渉外協力
- ⑦飲料等の差入 等々



【成果】令和5年度の大盛況が児童の心にも残っていて、大会への意欲喚起は必要ないほど、それぞれ目標達成へ向けて練習に取り組んだ。当日は昨年以上の人が沿道を埋め尽くし大声援を受けながら走る姿は箱根駅伝を思わせるほど子ども達は輝いていた。併せて、地域の方々の手作り横断幕や小旗、地区センター、消防団、山車組（に組）からの差入等、改めて地域に支えられていることへの感謝の気持ちもちらながらのラストランとなった。

【課題や今後の展開】沿道の地域住民、監察係員等、今大会に関わってくださったたくさんの人に「いい大会だ」と言っていたが、閉校に伴い最後の大会となる。子ども達の必死な姿や元気な声が地域を元気にすることが再確認できた本大会。閉校後、子ども達と小鳥谷地区がどのように関わりを深め、地域に貢献できる人材についていか、それこそCSが大きな鍵になると考える。